

【単年度】住民・事業者・来訪者の多様なニーズに応じた道路空間シェアによる、温泉街のさらなる魅力向上社会実験(兵庫県豊岡市)

1. 実験概要

令和7年11月中旬の4日間にかけて、地元関係者を主体とした城崎温泉交通環境改善協議会が中心となって、温泉街中心部の主要路線において、「車両通行規制」「歩行者の滞留促進仕器の設置」「荷捌き場の設置」による時間的・空間的な道路の有効活用に関する社会実験を実施。

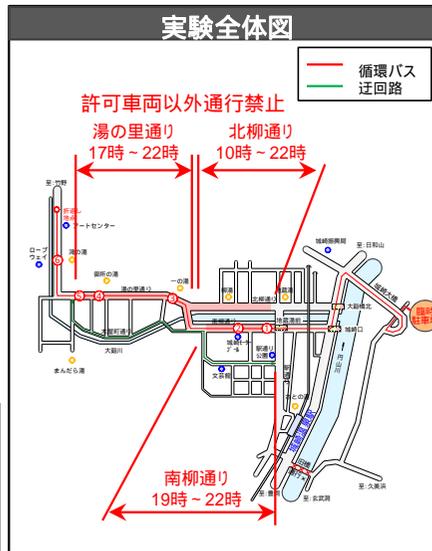
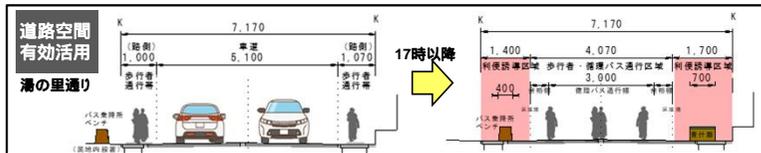
構成団体 震災復興100年記念プロジェクト実行委員会、城崎温泉旅館協同組合、城崎温泉観光協会、全但バス、湯のまち城崎、町内会、城崎町湯島財産区、城崎こども園、小学校及び中学校PTA
 (オブザーバー: 豊岡河川国道事務所、豊岡土木事務所、芸術文化観光専門職大学、アドバイザー: 中央大学、グローバル交流推進機構、全体指揮: 東京大学(出口研究室)、事務局: 豊岡市)

2. 実験内容、実験結果

【実験概要】

実験期間 : 令和7年11月13日(木)～16日(日)
 実験路線 : 北柳通り、湯の里通り、南柳通り
 実験内容 :

車両通行規制による安全な道路空間の創出
 歩行者が滞在しやすい道路空間の創出
 循環バスの運行等による域内移動の利便性向上
 路上駐車抑制による円滑な交通環境の確保

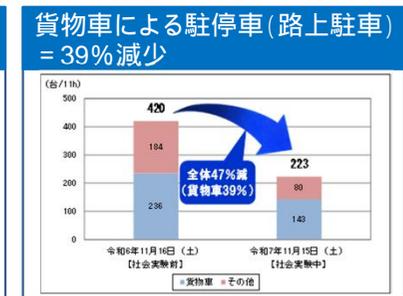
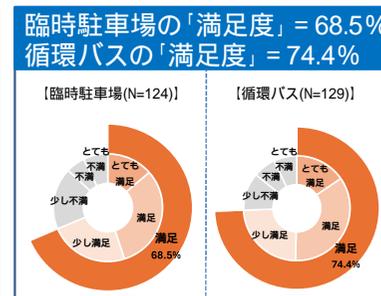
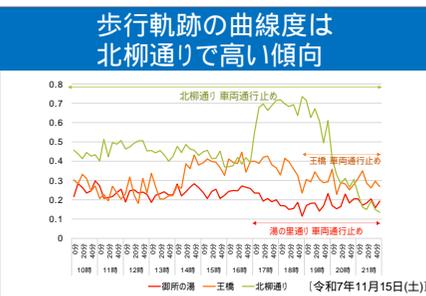
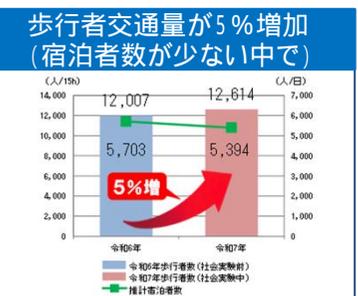
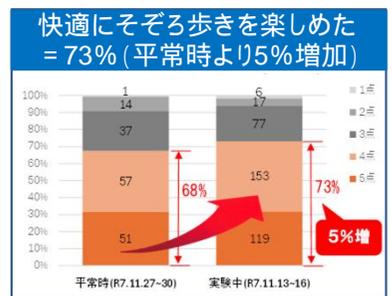
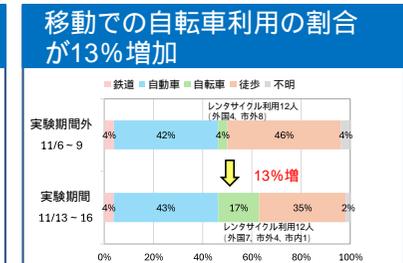
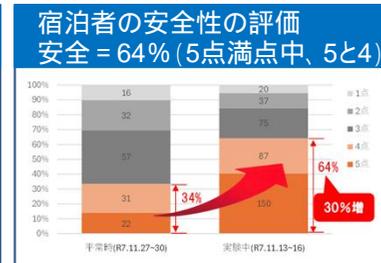
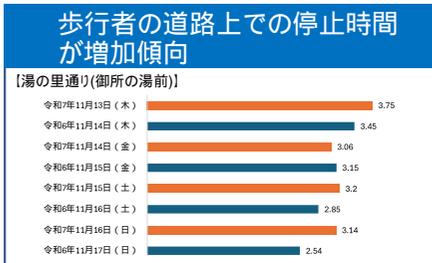


各主体が道路空間をタイムシェアし、柔軟に道路空間を活用



【主な実験結果】

- そぞろ歩きの快適性の評価が向上
 - ・宿泊者の快適性評価が向上。歩行者停止時間、曲線度が向上傾向。
- 移動の安全性、利便性を確保
 - ・宿泊者の安全性の評価が向上。
 - ・臨時駐車場及び循環バスの満足度は50%以上を確保。
 - ・域内及び域外移動における自転車利用割合が増加。
- 貨物車による路上駐車が減少



【単年度】住民・事業者・来訪者の多様なニーズに応じた道路空間シェアによる、温泉街のさらなる魅力向上社会実験(兵庫県豊岡市)

3. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

実験では、歩行者の安全性・滞在性・利便性の向上を目的に、車両通行を規制した上で道路空間に什器を設置し、時間的・空間的な道路の有効活用による温泉街の魅力向上効果を検証し、一定の成果を得た。今後は、道路空間を活用した取り組みを主体的に運営する体制の構築、道路占用等における許可基準との整合、運営財源となる収支システムの構築が課題であり、それらを含むエリアマネジメントを促進するためのマニュアル作成が望まれる。

歩行者空間での循環バスの運行においては、車外に音声を流すことで、歩行者の飛び出し等による危険挙動が減少する結果となった。今後の検討事項であるグリーンスローモビリティと歩行者の空間共存に向けて、道路空間の時間帯別使い分けに求められる安全性の要件(防護柵やポラードによる歩車分離、幅員の確保)について、弾力的な運用が課題である。

4. 意見と対応

有識者等からの意見	意見への対応
外国人観光客向けのチラシや看板が必要	・外国人観光客向けに英語のチラシを作成し配布した。また、道路上の案内看板は英語を併記したものを掲示した。
交通規制及び荷さばき場の確保にあたっては、その方法等について警察との調整が必要	・通行止め区間の走行を許可する実験関係者車両のリストを作成し警察と共有した。 ・荷捌きスペースの視認性確保のため、駐車枠を明示し、駐車位置は交差点との離隔距離を確保した。 ・路上荷捌き場を活用する車両には、事前届出によって駐車許可証を発行し対応した。
対策を検討する上で、データを活用する視点が重要	・交通量(自動車、歩行者)、路上駐車、歩行者動線、ビッグデータを用いた交通実態について調査・分析を行った。 ・観光客へのアンケート調査も並行して実施。

5. 本格実施に向けた課題と対応方針

本格実施に向けた課題	課題への対応方針
規制区間の設定に関する合意形成、什器の配置や維持管理を主体的に運営する体制の構築と、取り組みの継続性の確保	運営財源となる収支システムの構築に向け、賑わい創出に関わる事業者間の調整やエリアマネジメントの促進
道路占用や道路使用における許可基準(安全基準)との整合性	歩行者利便増進道路制度の適用を視野に車道部分の利活用を検討
移動の利便性向上のための交通手段と安全性の確保	循環バス運行時の案内や安全対策、自転車の走行環境等の課題を検証
荷捌き場の設置に関する合意形成、利用時間の設定や管理体制の構築	業態が複数に渡るため業者間の調整を進めると共に、民地や路上を活用した荷捌き場の設置では、沿線住民、地権者等との合意形成を図る

6. 今後のスケジュール

- ・交通規制の設定に関する合意形成や、什器の維持管理等、運営する主体の体制構築に向けた検討を行うと共に、歩行者利便増進道路の指定を視野に、沿線住民、事業者、関係機関と協議・調整の上、車道部分の利活用(自転車利用環境含む)の具体策等について検討を進める。
- ・荷捌き場の設置についても、民間敷地や路上を活用する際の条件や、利用時間、管理体制等について、住民、地権者、関係機関と調整を進める。